

# 乳腺外科

世田谷区及び沿線地域に根ざしたブレストセンターの役割を目指しています。

## 当院の乳腺外科の特徴

癌をはじめとした乳腺の疾患には、適切な検査・診断と治療の必要性が求められます。当院は日本乳癌学会から施設認定を取得し、独立した乳癌治療施設として診療を行っています。

病理診断科による手術中の顕微鏡診断（術中迅速病理検査）が可能で、放射線治療科は専門医やスタッフと機器をそろえ、形成外科やリハビリテーション科などと連携し、近隣病院・周辺開業医の先生と一緒に診療しています。

手術治療では、低侵襲でも効果が劣る事のない治療を積極的に行っています。例えば癌手術の場合、最初に転移をする見張りリンパ節（センチネルリンパ節）を特殊な色素と医療用放射性物質を用いて探し出し、手術中に転移の有無を顕微鏡検査することが可能です。これにより多くの症例で手や指のむくみや痺れが避けられます。また手術創の小さい乳腺内視鏡手術は、温存術でも乳腺全摘出術でも胸の前面に傷跡が目立ちません。癌以外の疾患ではさらに低侵襲な手技が施行可能です。

## 診療体制

乳癌学会認定医・乳腺専門医・指導医中心で診療します。原則として外来診療・検診は予約制で、館花（月曜 AM/PM, 火曜 PM）、國又（木曜 10:30～）、浜口（木曜 PM）、鈴木（水曜 AM/PM）、田崎（火曜 AM）、関根（月曜 AM/PM）が担当します。また、女性医師を希望の場合は田崎外来に、セカンドオピニオン希望の場合は館花外来となり（別医師も可）、國又担当の画像診断外来（木曜 AM）も開設されています。他院から受診される場合、紹介状とともに各種検査データがとても役に立ちますので、ぜひ持参して下さい。入院治療・手術治療は医師、専任看護師、薬剤師による多職種チームで診療にあたります。（当科の手術日は火・木・金）

## 治療方針

特に悪性疾患の場合、乳腺外科、放射線科、画像診断科、病理診断科等の医師らと症例ごとにカンファレンスを行い治療方針が決まります。温存手術が主流ですが、温存不可能な大きい腫瘍でも手術前に薬物治療から開始し、切除範囲を小さくすることで温存可能となる症例も少なくありません。全摘後の乳房再建で人工物や、背中やお腹の組織を用いるような技術を要す手術も、経験豊富な形成外科の専門チームとの協力で施行可能で、乳癌の手術と同時再建も対応できます。全摘後の再建は 2013 年秋から保険適応となり、受ける患者さんも増えています。一方で残念ながら手術適応のない程の進行癌、転移・再発癌治療も当科での診療となり、抗癌剤など全身治療は入院、外来のそれぞれで実施します。

## 担当医師紹介



部長  
館花 明彦  
(たちばな あきひこ)



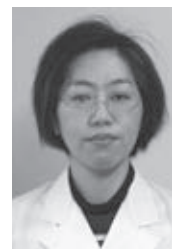
放射線科医長  
乳腺外科兼任  
國又 肇  
(くにまた はじめ)



医師  
浜口 洋平  
(はまぐち ようへい)



医師  
鈴木 信親  
(すずき のぶちか)



医師  
田崎 英里  
(たさき えり)



医師  
関根 進  
(せきね すずむ)